

TAD Letter | 08



富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

日本の美 美術×デザイン -琳派、浮世絵版画から現代へ-

2019年8月10日(土)~10月20日(日) 前期 8月10日(土)~9月16日(月・祝) 後期 9月21日(土)~10月20日(日)

日本の美術にみる装飾性・デザインの表現に着目し、琳派、浮世絵版画から現代絵画、ポスターまで、その多様な美の様相を紹介した展覧会です。今回は後期の見どころをご紹介します。



見どころ



01

神坂雪佳『百々世草』より《狗児》1909-10年刊

千葉市美術館蔵(ラヴィッツ・コレクション)

竹林で興味深かつたつむりを見つめる白い仔犬と、こちらを向いた茶色の仔犬の姿が愛らしく描かれています。その素朴な表情からは、現代の「ゆるキャラ」にも通じるかわいらしさが伝わってきます。最後の琳派と呼ばれた雪佳のデザイン感覚あふれる1点です。

01



02

福井江太郎《嘩》(右隻) 2019年 作家蔵

金箔の地に生命感あふれる赤と青のバラが、画面いっぱいに描かれています。大胆な構図やビビッドな色彩感覚からは、琳派の影響が色濃く感じられますが、バラをありのままに描くのではなく、その特徴を捉えながら装飾的な独自のフォルムに仕上げています。

02



03

歌川広重『東海道五拾三次之内』《亀山雪晴》1832-33年頃刊
光ミュージアム蔵

朝焼けに染まり始める山の端、冬の早朝の静寂が見事に表現されています。武士の一行が城を目指して急坂を登っています。その心情が風雪に耐えてきた松の巨木に投影されているかのようです。墨の濃淡による画面左下から右上に向かっての大胆な斜線構造に、すぐれたデザイン感覚が感じられる名品です。

03



開催概要

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休 館 日 毎週水曜日、祝日の翌日、ただし10月16日(水)は開館。

※9月17日(火)~20日(金)は展示替えのため、企画展はご覧になれません。

※作品保護のため、会期中に複数回展示替えを行います。

会 場 富山県美術館 展示室2、4

主 催 富山県美術館、北日本新聞社、北日本放送

観 覧 料 一般 1,300 (1,000) 円、大学生 650 (500) 円、高校生以下無料

※ () 内は20名以上の団体料金

関連イベント

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。内容等は都合により変更する場合があります。

01

茂山千五郎・
茂山千之丞と
山本太郎による
トークセッション

日 時 2019年9月21日(土) 14:00-(約90分) ※開場13:30-

会 場 3階ホール(定員100名、先着順、要企画展チケット提示)

02

学芸員による
ギャラリー・トーク

日 時 会期中の毎週土曜日 11:00-(約30分)

会 場 展示室 4、2 (要当日有効の企画展チケット)

びじゅチューン!×TAD なりきり美術館

2019年8月10日(土) - 10月20日(日)

江戸時代の人みたいに 浮世絵を楽しみたい!!

アーティストの井上涼氏の歌とアニメで、世界の「びじゅつ」を紹介する大人気のNHK Eテレの番組『びじゅチューン!』と富山県美術館(TAD)がコラボした特別展示を開催中です。

この特別展と同時期に、企画展「日本の美 美術×デザイン-琳派、浮世絵版画から現代へ-」を開催。こちらでは近世から現代の様々な作品を展示し、浮世絵も多数ご紹介中です。特に皆様におなじみの浮世絵は、葛飾北斎《富嶽三十六景・神奈川沖浪裏》※1と歌川広重《名所江戸百景・大はしあたけの夕立》になるのではないのでしょうか?

この必見の作品をさらに楽しく、江戸と現代という時代を超えて身近に「びじゅつ」に親しんでいただくため、この2点の作品に関する「なりきり美術館」のコンテンツを展示します。北斎の波の絵に入り込んだような気分になれる「体感! ザバーンドプーン北斎」、広重の名作をたどりながら浮世絵の制作手順を知ることができる「雨は愛すがどう描く?」でわくわくし、自由な想像力で美術作品に親しみ、鑑賞を深めることを目指しています。

本展示は観覧無料です。企画展「日本の美」展で現物と見比べてみる、何度も来て夏休みの思い出にするなど、大人も子どもも「びじゅつ」を身近に感じて楽しめる機会をご活用ください。



※1 9月21日(土)~10月8日(火)は展示しておりません。

※ 一度に体験できる人数には限りがあります。

順番待ちのため並んで頂く場合がありますのでご了承下さい。

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日、祝日の翌日、ただし10月16日(水)は開館。

※9月17日(火)~20日(金)は展示替えのため、企画展並びに本展はご覧になれません。

会場 富山県美術館 展示室3

主催 富山県美術館、文化財活用センター、NHK富山放送局

協力 東京国立博物館

観覧料 無料

開催概要

瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティク》2019 詩人と画家の 出会い 交流 創造

2019年11月1日(金)-12月25日(水) 前期 11月1日(金)-11月26日(火) 後期 11月28日(木)-12月25日(水)



瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティク》2019
詩人と画家の出会い 交流 創造



Yamanashi Prefecture

2019年11月1日(金)-12月25日(水)

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

前期:11月1日(金)~11月26日(火)

後期：11月23日(木)～12月25日(木)

休刊日：毎週金曜日（ただし12月24日は除く）、配付日：（日）月曜

Opening Hours: 9:30 AM-6:00 PM (Last admission is 5:30 PM)

Exhibition Closed: 11/5, 11/6, 11/13, 11/20, 11/27.

主眼は「自由貿易政策」にあり、日本は諸国に、貿易の自由化を求め、

Organized by: You are Pivotal Museum of Art and Design, The Mississippi Museum of Art, You are Pivotal Museum of Art Ltd. In Collaboration with: Institute of Contemporary Art, University of Cambridge

GRASSI EMBRE, YANNICK; GRASSI EMBRE, YVES. Tel. 0161 610611

Equipe Profissional de Apoio à Saúde (EPAS) - Rua
Equipe Profissional de Apoio à Saúde (EPAS) - Rua
Equipe Profissional de Apoio à Saúde (EPAS) - Rua

2-1 建築材料の基礎知識 ① 建築材料の基礎知識 ② 建築材料の基礎知識 ③ 建築材料の基礎知識 ④ 建築材料の基礎知識 ⑤ 建築材料の基礎知識 ⑥ 建築材料の基礎知識 ⑦ 建築材料の基礎知識 ⑧ 建築材料の基礎知識 ⑨ 建築材料の基礎知識 ⑩ 建築材料の基礎知識 ⑪ 建築材料の基礎知識 ⑫ 建築材料の基礎知識 ⑬ 建築材料の基礎知識 ⑭ 建築材料の基礎知識 ⑮ 建築材料の基礎知識 ⑯ 建築材料の基礎知識 ⑰ 建築材料の基礎知識 ⑱ 建築材料の基礎知識 ⑲ 建築材料の基礎知識 ⑳ 建築材料の基礎知識 ㉑ 建築材料の基礎知識 ㉒ 建築材料の基礎知識 ㉓ 建築材料の基礎知識 ㉔ 建築材料の基礎知識 ㉕ 建築材料の基礎知識 ㉖ 建築材料の基礎知識 ㉗ 建築材料の基礎知識 ㉘ 建築材料の基礎知識 ㉙ 建築材料の基礎知識 ㉚ 建築材料の基礎知識 ㉛ 建築材料の基礎知識 ㉜ 建築材料の基礎知識 ㉝ 建築材料の基礎知識 ㉞ 建築材料の基礎知識 ㉟ 建築材料の基礎知識 ㊱ 建築材料の基礎知識 ㊲ 建築材料の基礎知識 ㊳ 建築材料の基礎知識 ㊴ 建築材料の基礎知識 ㊵ 建築材料の基礎知識 ㊶ 建築材料の基礎知識 ㊷ 建築材料の基礎知識 ㊸ 建築材料の基礎知識 ㊹ 建築材料の基礎知識 ㊺ 建築材料の基礎知識 ㊻ 建築材料の基礎知識 ㊼ 建築材料の基礎知識 ㊽ 建築材料の基礎知識 ㊾ 建築材料の基礎知識 ㊿ 建築材料の基礎知識

© 2012 John Wiley & Sons, Ltd. *J. Forecast.* **32**, 1–16 (2013)
DOI: 10.1002/for



ポスター Design : 三木 健

加納光於(1933年生まれ)は、戦後の日本を代表する美術家です。独学で銅版画の技術を習得した加納は、インタリオと称する凹版画や、バーナーで加工した金属板を版に用いたメタルブリントなど、徹底した素材の研究を基に、独創的な版画作品を制作し、版画家としての評価を確かなものにしました。

若き無名時代の加納の才能をいち早く見出したのが、富山県出身の詩人で、美術評論の場でも活躍した瀧口修造（1903年-1979年）でした。1956年、瀧口は企画運営を任されていたタケミヤ画廊での銅版画グループ展に加納を招待するとともに、同画廊で初個展をプロデュースしたのを皮切りに、最晩年の共同作『稲妻捕り』Elements』や『掌中破片』といった詩画集の上梓に至るまで、加納光於と四半世紀にわたり創造的な交流を持ちました。

瀧口の亡き後も、加納の創作意欲は留まるところを知らず、版画のみならず色鮮やかな平面作品も精力的に制作。新たな素材と対峙するごとに、素材の研究を重ね自身の表現の地平を切り開いてきた加納は、常に瀧口存在を、彼の眼差しを意識しながら制作に向き合ってきたと言います。

この展覧会では、初期から近年までの加納作品を紹介するとともに、瀧口の作品や、二人の交流を示す資料を合わせて展示し、強く共鳴し合った二人の精神と創造に光を当てます。

閨催概要

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日（12月25日は開館）、11月5日（火）

※会期中、一部作品の展示替えを行います。

会 場 富山県美術館 展示室3、4

主 催 富山県美術館、北日本新聞社、富山テレビ放送

観 覧 料 一般 900 (700) 円、大学生 450 (350) 円、高校生以下無料

※（）内は20名以上の団体料金

第1回TADアート・レクチャー

「瀧口修造没後40年－書斎のシュルレアリスム」

講師 巖谷國士氏（フランス文学者、美術評論家）

日時 2019年7月20日（土）14:00-16:00

参加人数 112名

巖谷國士氏は瀧口修造と長い交流があり、瀧口の超現実的な「書斎」にも、しばしば招かれていました。今回のレクチャーでは、シュルレアリスムとは何か、日本ではどう浸透していったのか、そしてその紹介者の一人でもある瀧口の生涯について、お話しいただきました。

瀧口が書斎に置いていたオブジェはほとんど贈り物からなっており、巖谷氏も瀧口へ贈り物をし、そのお返しに瀧口から作品などを贈られたとのこと。その一つ、瀧口家の庭にあるオリーブ

の実の瓶詰めのことなど、瀧口との交流を懐かしく語られました。

後半はスライドを用いて、瀧口の書斎と、彼と交友したアーティストとのエピソードを軽快な口調で語られ、その心の通った交流に思いをはせることのできるレクチャーとなりました。



当日の会場の様子

夏休みアートサークル

「夏休みアートサークル」は、夏休み期間中にじっくり制作に取り組む、2日間のプログラムです。7月27日（土）・28日（日）の子ども向けワークショップ「ことばと、ばしょ。」では、グラフィックデザイナーの橋本利久さんを講師に、美術館内を探検して見つけた「ことば」の文字を、大きな立方体の上にデザインしました。最後に館内でみんなの箱を

積み上げると、おもしろい「ことば」がいっぱい！8月3日（土）・4日（日）のおとな向けワークショップ「じっくり楽しむエッチング、シン・コレ、手彩色銅版画」では、版画家の玉分昭光さんの指導で銅版画を制作しました。多くの方が銅版画は初体験でしたが、皆さん思い思いの作品を完成させることができました。



「ことばと、ばしょ」で制作した立方体



銅版にインクをつめる参加者

ヴァーツラフ氏と巡るチェコ・デザイン

チェコから来県し、富山ガラス造形研究所准教授を務めるヴァーツラフ・レザーチュ氏と、同校主任教授の本郷仁氏を迎えてギャラリートークを開催しました。アール・ヌーヴォー期の花瓶や、1930年代の耐熱ガラス食器などガラスのお話だけでなく、チェコのおもちゃについてなど、チェコの複雑な社会背景とそこで生きた人々の暮らしのことなどをお話いただきました。チェコでのご自身の思いも交えた熱のこもったトークは、解説を加えながら通訳してくださった本郷氏との息

もピッタリでした。富山での任期を終えてまもなく帰国のヴァーツラフ氏と、ご来場のお客様にとって、楽しい思い出となったひとときでした。



チェコ・デザイン展でのトークの様子

「日本の美 美術×デザイン」オープニングイベント 福井江太郎ライブペインティング

企画展「日本の美 美術×デザイン」の初日、8月10日(土)14時より、出品作家の福井江太郎氏の墨絵の公開制作が行われました。ご自身の制作やモチーフについてのお話後、真っ白な紙に墨が垂らされ、制作が始まりました。「次はどこに駝鳥が現れるだろう?と考

えながら見てほしい」と福井さん。15分足らずの間に駝鳥が次々とあらわれます。手によって描かれる、のびやかで迫力ある制作風景を間近に見た観客から、大きな拍手が起こりました。完成した作品は富山での出会いの意味を込め、「逢(ほう)」と名付けられました。



美術館ホワイエでのライブペインティングの様子



01 プラバンでつくる! 暗闇で光る! 「空飛ぶ生きものをつくろう」

平日

参加 無料

開催日 8月8日(木)~9月27日(金)の平日

活動時間 10:00~12:00、14:00~16:00

会場 富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)

※作品はSTART展に出品のため、当日のお持ち帰りはできません。(後日返却)



02 黒塗りうちわをつくろう

土日祝

参加 無料

開催日 8月24日(土)~10月20日(日)の土・日・祝

活動時間 10:00~12:00、14:00~16:00

会場 富山県美術館3階ラボ(アトリエ内)



イベント案内

開催概要

EVENT 01

佐藤卓氏 スペシャルトーク

日本を代表するグラフィックデザイナーの佐藤卓氏によるトークイベント。
本展デザインマインドについてお話しいただく予定です。

日時 2019年10月6日(日) 14:00~(約90分) ※開場13:30~

会場 富山県美術館3階ホール

定員 100名(申込不要・「日本の美」展の観覧券が必要です。当日先着順。)

料金 無料

EVENT 02

安村敏信氏 トークイベント

「日本の美」展カタログにご寄稿いただいた江戸絵画の専門家、安村敏信氏
によるトークイベントです。

日時 2019年10月13日(日) 14:00~(約90分) ※開場13:30~

会場 富山県美術館3階ホール

定員 100名(申込不要・「日本の美」展の観覧券が必要です。当日先着順。)

料金 無料

月光

エドヴァルド・ムンク

1901年 紙・木版



暗がりの中、黒い衣服に身を包んだ女性が佇んでいます。無表情な彼女は正面を向いており、こちらへ視線を向けているようですが、一体何を考えているのでしょうか。

作品をじっくり見つめてみると、右上に木々の形、左上に窓枠が描かれ、女性の背後の画面左半分は、板木を表わしたストライプ模様が見え、彼女が戸外にいることが分かります。月明りは女性と背後の家を照らし出し、外壁に女性の影を投げかけています。タイトルの《月光》は、この窓に映りこんでいる月を表わしています。

背景の建物は、1890年代にムンクが毎夏を過ごしたノルウェーのオースゴールストランのサマー・ハウスです。作品のモデルは、当時ムンクと愛人関係にあった女性だとされています。

エドヴァルド・ムンクは19世紀末から20世紀にかけて活躍したノルウェーの画家です。画業の初期には、印象派から影響を受けた自然主義的な絵画を描いていましたが、幼い頃の肉親の死を原点到、人の生や死、愛、憂愁や恐怖など内面的な主題を

表現したいという思いが強まり、象徴主義へと向かっていきます。

この作品は、油彩画《月光》(1893年)を木版画にしたものです。油彩画と比べると、輪郭線が明快に表現され、木版独特の刷り目も表現されています。また、版画にしているために構図が左右反転しています。画面もほぼ正方形に形取られ、油彩画よりも女性の胸から上がクローズアップされているのが特徴的です。

このように特徴的な構図の中に、正面を向いた人物の胸像と背景とを組み合わせた構成を、ムンクはしばしば用いました。まるで女性と対面するかのような、緊張感のある構成ですが、その表情や闇夜の情景は、内なる情念を伝えてくれているかのようです。

月光に照らされ、暗闇にうっすらと浮かび上がる女性の顔は、不気味な幽霊を思わせるようでもあります。どこか不穏でありながらも、静けさの漂う風景にじっと立ち尽くす彼女の内なる訴えに、耳を傾けてみてはいかがでしょうか。(学芸員 湯佐 明子)

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>